保護者の食の安全意識と食材購買行動

— 幼児を持つ日本人保護者と中国人保護者の認識の比較を中心に —

○水野智美¹・徳田克己¹・西館有沙²

(¹筑波大学医学医療系・²富山大学人間発達科学部)

キーワード：食の安全 中国人保護者 購買行動

Parent' Food Safety Awareness and Purchasing Behavior

— Comparison of the recognition of Japanese parents with infants and Chinese parents with infants —

Tomomi MIZUNO¹, Katsumi Tokuda¹ and Arisa NISHIDATE²

(¹University of Tsukuba, ²University of Toyama)

Key Words: Food Safety, Chinese parents, Purchasing Behavior

目 的

食の安全に関する報道がマスコミで取り上げられることが多く、乳幼児を持つ保護者は、食に対する不安を感じていることを日々感じる。そこで、乳幼児を育てている日本人保護者と中国人保護者は、食の安全に関してどのような認識を持っているか、日本人と中国人の間に食の安全に関する認識と購買行動に違いがあるのかについて明らかにしたい。

方 法

①調査対象者

日本人保護者は、福島県内のこども園、保育園 (2 か所)、鹿児島県内のこども園、保育園 (2 か所)、熊本県内の保育園 (2 か所) に子どもを通わせている保護者、計 250 名を調査対象とした。中国人については、北京市内、石家荘市の幼稚園 (3 か所) に子どもを通わせている保護者 185 名を調査対象とした。

②調査手続き

各園の園長に調査を依頼し、承諾を得た園に調査対象者の人数分の質問紙と返信用封筒、依頼状を送付した。担任を通じて各家庭に配布してもらった。日本では回答後の質問紙は郵送によって回収した。中国では留置法を用いた。質問紙は自記式の無記名調査であった。また、郵送の際には、封筒に園名、氏名、住所等の個人が特定される情報を記入しないように依頼状に記した。調査時期は、日本は 2014 年 10～11 月、中国は 2014 年 9～10 月であった。筑波大学医学医療系の倫理委員会の承認を得て実施した (承認番号 912)。

結 果

①食品の安全性に関する認識

商店で一般的に販売されている食品がどの程度、安心できるものかと思うかについて、「非常に安心できる (5 点)」から「全く安心できない (1 点)」までの 5 段階で尋ねた。その結果、中国人の平均値は 2.61 ($SD=0.98$) であり、日本人の結果 (3.60, $SD=0.70$) と比べると、統計的に有意に低かった ($t(419)=12.01$, $p<0.01$)。このことから、中国人は一般に販売されている食品へのそもその信頼が低く、安心していないことがわかる。

また、食の安全に関する情報 (14 項目) について聞いたことがあるかどうか、聞いたことがある者を対象に、その内容

にどの程度賛同するかについて「非常にそう思う (5 点)」から「全くそう思わない (1 点)」までの 5 段階で尋ねた。その結果、中国人の方が日本人よりも遺伝子組み換え食品や食品添加物、養殖の魚介類の危険性を聞いたことがあると答えた者が多かった (前から：日本人 56%; 中国人 91%; $\chi^2(1)=70.92$, $p<0.01$ 、日本人 63%; 中国人 86%; $\chi^2(1)=23.00$, $p<0.01$ 、日本人 24%; 中国人 67%; $\chi^2(1)=69.06$, $p<0.01$)。

さらに、「無農薬野菜は安全である (日本人 4.03; 中国人 4.30; $t(329)=$, $p<0.01$)」、「放射性物質が含まれる食品を食べるとがんになりやすい (日本人 3.99; 中国人 4.46; $t(306)=5.05$, $p<0.01$)」、「遺伝子組み換え食品は身体に悪い (日本人 3.98; 中国人 4.36; $t(256)=3.73$, $p<0.01$)」、「無添加食品は安全である (日本人 3.82; 中国人 4.10; $t(297)=2.75$, $p<0.01$)」、「インスタント食品は発がん性がある (日本人 3.80; 中国人 4.17; $t(241)=3.50$, $p<0.05$)」という意見については、中国人の方が有意に賛同する傾向が高かった。中国人は SNS を用いて情報交換をしており、マスコミよりもこれらの情報を信用する傾向がある (徳田, 2015)。SNS の中で農薬や遺伝子組み換え食品などの危険性が指摘され、それを信じる傾向が強くなったと思われる。

②食品を購入する際に重視する内容

食品を購入する際にどのような内容をどの程度、重視するかを 5 段階で尋ねた (得点が高い方が重視していることを示す)。その結果、中国人は「抗生物質を与えられずに育てられた肉、魚である (日本人 3.07; 中国人 4.07; $t(419)=11.06$, $p<0.01$)」、「無農薬野菜を使用している (日本人 3.09; 中国人 4.12; $t(419)=11.55$, $p<0.01$)」ことを重視しており、日本人に比べて統計的に有意に高かった。

一方、日本人は、「値段が安い (日本人 4.25; 中国人 3.26; $t(419)=11.77$, $p<0.01$)」ことと「国産である (日本人 4.23; 中国人 3.79; $t(419)=$, $p<0.01$)」ことを中国人よりも重視する傾向があった。日本人は日本で販売されている食品に安心感を持っていること、特に国産の食品は安心できると考えていること、中国人は価格が高い食品の方が安全性が高いと考えていることが影響していると思われる。

付記 本研究は、平成 26 年度 一般財団法人 東和食品研究振興会の助成によって行われた。